



◆私たちができるところを 続けていきたい

下郷農協女性部
部長 石川貴美氏

4月の下郷農協女性部の総会で「(被災地支援で)私たちができるところをしたい」という声が出た。被災地に物資を届けたいという思いがありました。そんな中、岩手県消費者団体連絡協議会事務局長の伊藤様を紹介していただき、連絡を取り合いながら支援物資を決め、地域の人たちの協力も得て、あっという間に必要な荷物がそろいました。送料は農協が負担してくれましたし、カンパにもみんな進んで寄付してくれました。

物資も寄付もとても足りないと思いますが、被災地の皆さまのご活動に私たちも元気をもらいながら、今後も「私たちができるところ」を続けていきたいと思っています。

下郷農協は孫子の代までも健康な生活を送り続けてほしいという思いで、安全な食品を生産・販売しています。生協さんは、それをさらに広げてくださるところだと思います。皆で協力してこれからも助け合いましょう。



下郷農協女性部の皆さん。
(前列中央が石川部長)

大分の農協から支援物資届く

～いわて生協、いわて食・農ネットが支援物資の無償配布実施～



下郷農協女性部から届いた義援金で野菜を購入。配布には多くの人が訪れた。

9月20日に、岩手県陸前高田市高田町山苗代の体育施設「サン・ビレッジ高田」の仮設住宅で、支援物資の無償配布が行なわれました。これは、「いわて食・農・地域を守る県民運動ネットワーク(以下、いわて食・農ネット※)」といわて生協が協力して行なったものです。物資は大分県中津市の下郷農協女性部から届けられたもので、秋冬物の衣料や野菜、米が配布されました。また、物資と共に届けられた義援金で、陸前高田に向かう途中の農産物直売所「紫波ふる里センター」で野菜を購入し、こちらと一緒に配布されました。

同時に炊き出しも行なわれ、いわて食・農ネットのメンバーといわて生協の職員、組合員が協力して、「芋の子汁」を調理しました。当日は気温もぐっと下がり、温かい炊き出しは大好評でした。またこの日、「お茶っこ会」も開催され、傾聴ボランティア講座を受講済みの組合員ボランティア8人が、被災された方の話をじっくり聞きました。

下郷農協女性部から提供された物資を用いた支援は、この日の他に22、24日にも市内2カ所で実施されました。

※岩手県消費者団体連絡協議会、岩手県生活協同組合連合会などから構成

被災地の冬支度始まる



岩手の冬の寒さを気遣い、秋冬物衣料が届けられた。

秋冬物の衣類の配布にも多くの方々を訪れました。この仮設住宅で暮らす岡田憩子さんは「仮設住宅がどれくらい寒いかはまだ分かりません。震災直後に体育館で過ごしたことを考えれば大丈夫かと思いますが、やはり準備には念を入れています」。一方で、仮設住宅には収納スペースがほぼないため「物は厳選したい」という声もありました。

◆仮設住宅の現状とこれから



福島県社会福祉協議会
常勤副会長 岩下哲雄氏

仮設住宅の今後の課題となるのは、被災者の「孤立」への対策です。

阪神・淡路大震災では孤独死された方が多くいました。

その教訓から、福島県では167人の「生活支援相談員」を配置し、仮設住宅を定期的に訪問し、安否確認や相談支援を行なっていく予定です。

それに際しては、すでに仮設住宅でさまざまな活動をされているボランティアや専門家の方々との協力が不可欠です。

いまだ原発の終息が見えず、福島県には異様な緊張感があります。

多くの方が震災によって職を失ったり、原発の影響から子どもが他県に避難し家族がバラバラになったり、さまざまな風評被害や中傷を受けたり、福島県は苦境に立たされています。

まだまだ時間はかかりますが、これからの生活を見つめ、人生を取り戻す活動を、着実に進めていかなければなりません。

いわて生協・「バスボランティア」継続実施中

いわて生協コープ・ボランティアセンター（CVC）は、6月よりバスボランティアを実施してきました。これは盛岡市からバスで被災地に行き、日帰りでボランティア作業に従事するものです。9月24日実施のボランティアで26回目となりました。参加費は無料。毎回30人が参加、累計では700人近くになります。活動内容は、がれきの分別や、塩害を受けた農地を回復させるための菜種の栽培など多岐に渡り、その日その日に必要とされている活動が、現地の災害ボランティアセンターより振り分けられます。

24日は、総勢36人が午前6時30分に盛岡市内を出発し、陸前高田市に向かいました。午前中から午後3時まで、海岸沿いのがれき集積所跡地で、重機が取りきれなかったゴミや石を回収し、草刈りを行ないました。初めて参加した高校3年生の大西拓人くんは「来てよかった。みんなにこの体験を話して、友達を連れてまた参加します」と話していました。

同ボランティアは、10月に12回、開催が予定されています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

いわて生協 組織本部 組合員活動支援チーム
Tel. 019-603-8299（月～土曜日の9時～18時）
Fax. 019-687-1117



可燃・不燃ゴミ、石、草木を分別しながら回収。

コープふくしま・仮設住宅で「茶和会」開催



お茶を楽しみながら、悩みを共有。



福島県産の食品をテーマにしたコープふくしまオリジナルのカルタを楽しむ。

9月21日、福島県大玉村にある仮設住宅で、コープふくしまのボランティア活動「茶和会」が開催されました。台風15号による悪天候の中、6の方が集会所に集まり、生協職員や組合員理事と共に自由にお喋りをしました。

仮設住宅で暮らすのは、原発の放射線漏れで退避した「浜通り」に住んでいた方がほとんどです。参加した方々は、家に置いてきた位牌のことから近所付き合い、また、今後直面する豪雪や寒さに関する生活相談など、悩みを共有し合っていました。「家に帰り、元の生活をしたい」という切実な声も聞かれました。

「茶和会」は郡山市緑ヶ丘の仮設住宅でも行なわれており、毎週40人近い方が参加し、お喋りや趣味を楽しむ場となっています。大玉村の仮設住宅では今回が初めての試みでしたが、今後参加者が増え、人と人とを結びつける、自立へ向けての助け合いの場になっていくことが望まれます。（左欄にて、仮設住宅の今後の課題についてのインタビュー記事掲載）

◆リレー寄稿 ～震災半年を過ぎて



あいコープみやぎ
専務理事 多々良 哲氏

この間の全国の生協の皆さまからのご支援に感謝申し上げます。

あいコープみやぎでは、震災直後から避難所、福祉施設、医療施設等への物資支援に取り組み、4月からは石巻での炊き出しをパルスシステムグループと共に継続してきました。

今後は仮設住宅でのコミュニティー形成をサポートする活動などを考えています。

3・11震災直後の被災地では、皆が寄り添い、支え合い、助け合って暮らしていました。皆が見せた隣人への思いやり、助け合いの気持ちが地域コミュニティー再生のベースになります。

私たち生活協同組合こそが被災地に助け合いの社会を立ち上げる“復興”に貢献できるはず、と思っています。

被災地の生協として、今後も息の長い活動に取り組んでいきます。

サンネットの震災支援活動を高く評価

～第20回食品安全安心・環境貢献賞受賞～

コープ東北サンネット事業連合（以下、サンネット）は、震災時の支援活動が評価され、「第20回食品安全安心・環境貢献賞」（日本食糧新聞社制定・農林水産省後援）を受賞し、9月6日に贈呈式が行なわれました。

サンネットに加盟するいわて生協・みやぎ生協・コープふくしまは、大きな被害を受けたにも関わらず、各団体やボランティア等と連携し、きめ細かく被災者を支援したこと、また、自治体との緊急時物資供給協定に基づき支援物資を届けたり、組合員へのお見舞い訪問を行ったりしたこと等、この間の支援活動に力を入れてきたことがその受賞理由です。

受賞者を代表して、サンネット宮本弘理事長兼専務理事は「救援物資を届けることができたのは、全国から支援に駆け付けた生協の仲間、メーカーや卸の皆さんの大きな協力があったからこそです。また、生協に限らず、東北の食品に関する皆さんが一体となって支援できたことが、大きな被災地支援につながったと思っています。ですから、この賞は、皆さんと一緒に受賞した賞です。東北は生産県であるので、食産業を大きく復興させていくことが必要だと考えております」と受賞の喜びと今後の課題を語りました。



受賞スピーチを行なう宮本理事長兼専務理事。

支援物資を届けたこと、また、自治体との緊急時物資供給協定に基づき支援物資を届けたり、組合員へのお見舞い訪問を行ったりしたこと等、この間の支援活動に力を入れてきたことがその受賞理由です。

コープみえ・写真洗浄ボランティア



写真の選別作業。



洗浄が済んで干される写真。

コープみえでは、みえ災害ボランティア支援センター※の呼びかけに応じて、津波で汚れてしまった写真やアルバムをお預かりし、きれいにしてお返りする「思いで戻し隊」の活動に取り組みました。8月末から9月初旬の4日間に組合員や職員などのべ89人が参加、岩手県山田町から届いた約2,000枚の写真の洗浄作業や仕分け作業を行ないました。

1枚でも多く元の持ち主にお返しし、「思いで」を取り戻すお手伝いをしたい…そんな思いから生まれたボランティアだそうです。参加者は「現地に行けないので、身近な所で参加できて良かった」「写真がこんなに大切なものであることを今まで気付かずにきた。これからは、自分の写真も大切にしていきたい」と話していました。

※みえ災害ボランティア支援センター

(HP: <http://mvsc.jp/>) では、11月末まで継続してこの取り組みを行なう予定です。

①本日、「震災復興」オリジナルラベルワイン発売



みやぎ生協では仙台市の晩翠画廊、山梨県の酒造メーカー・蒼龍葡萄酒などと合同で本日9月28日から新作ワインを発売します。銘柄は希少種のアじろん、デラウエア、巨峰の3つで、ラベルのデザインは東北地方の美術学科に通う大学生から公募で決められました。みやぎ生協の36店舗で限定販売され、価格は880~1,380円です。

②コープふくしま「コープカフェ」開催



9月22日、コープ商品の試食会、「コープカフェ」が開催されました。コープ商品を使って調理をしたり、食べたりと、コープ商品をきっかけに集まった参加者は、同時に、放射線の最新情報を共有したり、相談事に対して解決策を考えたりしました。カフェでは、放射線のQ&Aのしおりが配布され、また、1週間身につけておくことで1年間にあぶる放射線量を予測できる電子ポケット線量計が貸し出されました。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

●敬老の日予約商品に復興に力を入れるメーカーの商品掲載 ●けせんコープ組合員が陸前高田市で炊き出し(9/20、22、24) ●盛南コープ「被災地支援バスツアー」(9/29) ●宮古産業まつり&地産地消フェスタ(10/1、2) ●けせんコープ生協まつり(10/1) ●釜石、にのへ、花巻でコープ生協まつり(10/2) ●コープ関コルザ「復興支援 地産地消フェスタ」(10/8、9) ●久慈コープ生協まつり(10/8) ●マリンコープ DORA「岩手三陸復興支援 LIVE」(主催・宮古市魚市場仲買人青年部ワカシの会、後援・マリンコープ DORA、10/10) ●陸前高田ふれあいお茶っ子会(仮設2か所、第2・第4水曜など) ●盛岡から大槌へのボランティアバス運行(10月は12回運行予定)

【宮城県】

みやぎ生協

●農地の再生を目指した菜種プロジェクトスタート ●大学生がラベルをデザインした復興支援オリジナルワイン販売(左欄①)

【福島県】

コープふくしま

●仮設住宅での茶和会(9/21) ●コープカフェ(9/22、左欄②)

【各県連等】

●福島県生協連/第2回東電損害賠償説明会(10/4) ●コープネット事業連合/旧騎西高校避難所(埼玉・加須市)支援 ●パルシステム連合会/被災地へ商品提供

台風12号・15号の被災地への生協の支援

台風12号の被災地支援が続いています。和歌山県生協連、奈良県生協連、三重県生協連では合同で10月31日までの募金口座を開設しました(「奈良県生協連台風12号災害支援募金」南都銀行南支店<普>2084264)。また、和歌山県では災害ボランティアの第一次募集(10月2日まで)を行っており、和歌山県生協連では連絡窓口を設置しました(問い合わせは電話073-474-9095まで)。

ならコープでは、店舗で組合員理事による募金活動が取り組まれ、9月12日までに366,998円が寄せられています。15日には奈良県に義援金500万円を届けました。コープみえでは共済お見舞い活動が14日から行なわれ、229件の面談を行ないました。

台風15号も各地に大きな被害をもたらしています。各生協では対策本部を立ち上げ(コープぎふとコープあいちは20日、東海コープも21日)、コープぎふでは多治見市役所からの要請があり、店舗在庫からお茶を納品しました。

◎生協の震災復興支援の取り組み情報募集!!

皆さまの地域での生協の復興支援に関する取り組み情報をお寄せください。情報提供専用メールアドレス: action@coop-book.jp



つながろう CO・OP アクション情報 (隔週水曜日発行・次回10月12日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F
Tel: 03-5778-8183/Fax: 03-5778-8051
action@coop-book.jp